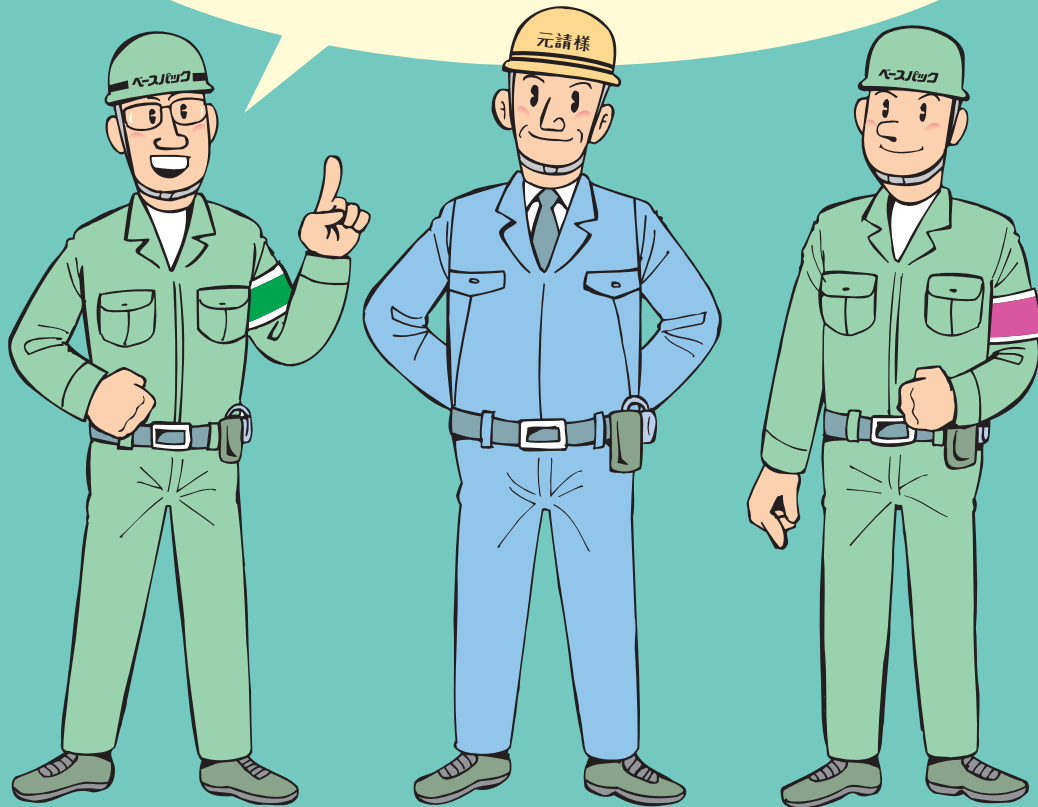


ベースパック® 施工マニュアル

施工の前に必ず本書をご一読下さい

ハイレベルな柱脚性能をお約束する
ベースパックです
皆様と協力してより良い施工を進めましょう



建築施工会社の現場工事管理者へのお願い

ベースパック柱脚工法は、建築施工会社・鉄骨業者とベースパック・セレクトベース施工会社が共同で施工を行なう工法です。実施にあたり、特に次の点をご確認ください。ベースパックを据付ける際、「**位置と高さの指示**」および「**据付け後の精度確認**」は**建築施工会社の工事管理者が必ず行ってください**。ベースパック施工者はその指示に従うものとします。

URL : <https://www.b-pack.net/>

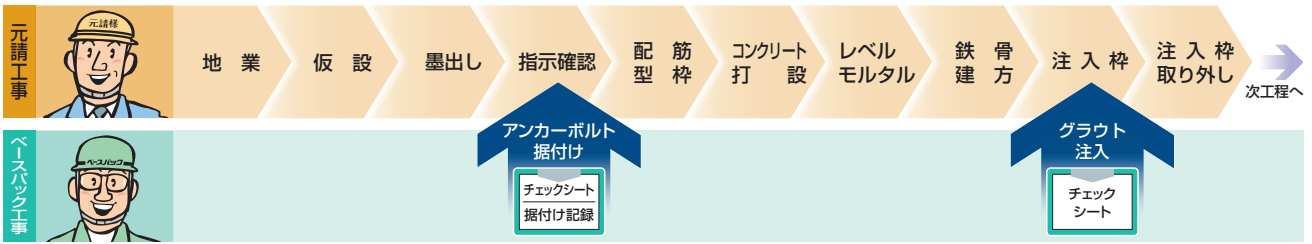


：一般的な注意を喚起する表示。



警告：取扱いを誤った場合に、人が死亡または重症を負う危険な状態が生じることが想定される場合の表示。

工程



No.	工程	施工区分		施工条件
		ベースパック工事	元請工事	
1	事前打合せ	●	●	次の項目に対して打合せをお願いします。 ■ 工程。(施工手順・方法、役割分担・責任範囲) ■ 搬入経路、トラック種別、部材置場・保管場所、クレーンの手配。 ■ 捨てコンの厚さ(90mm以上)、杭頭処理、嵩上げ方法、配筋検討。(梁配筋、ベース筋のかぶり) ■ 足場の手配、先組の可否(高h寸法時)。初回入場時の必要書類(各種免許の携帯またはコピー)、安全教育。
	仮設	●	●	ベースパック据付け時迄に電源(100V)、水道水、足場の用意をお願いします。
2	地業	●	●	捨てコン ベースパック据付け部は、厚さ90mm以上としてください。養生期間は2日以上、金コテ等による平滑仕上げをお願いします。
	杭頭処理	●	●	杭頭鉄筋の台直し、杭頭部のコンクリートのならしを据付けの前日迄に終了願います。
3	墨出し	●	●	柱心墨出し 通し墨による柱心の明示およびコンクリート柱型の明示を据付け日の前日迄に終了願います。
4	荷卸し	●	●	荷卸し 部材の検収をします。(使用部材と納品書の照合・サイズ・数量・形状の確認等) アンカーフレーム組立て用部材と注入座金、グラウト材を分けます。 注入座金とグラウト材の保管をお願いします。
	材料配り	●	●	材料配り 設置位置、部材種類・サイズ・数量の確認。運搬路の安全を確認します。 運搬具・揚重機(部材重量の確認)の手配をお願いします。
5	アンカーボルト据付け	●	●	わき水の処理 わき水等は事前に処置願います。
	レベル計の用意	●	●	レベル計の用意 据付け当日、ご用意願います。
	据付け位置・据付け高さ指示	●	●	据付け位置・据付け高さ指示 ⚠ 据付け当日、立会いにてご指示願います。
	アンカーボルト据付け	●	●	アンカーボルト据付け 標準施工Ⅰ 標準施工Ⅱ ベースパック工事打合せ書等により指定施工店が施工します。
	立会い検査	●	●	立会い検査 ⚠ 据付け位置、高さ等の完了検査、チェックシートに承認のサインをお願いします。
	据付け記録	●	●	据付け記録 ベースパック据付け記録に対する承認をお願いします。
	ねじ部養生	●	●	ねじ部養生 (アンカーボルト) ネジ部をテープ等により養生します。
6	配筋型枠	●	●	部品保管 注入座金、グラウト材の保管をお願いします。
	配筋、型枠	●	●	配筋、型枠 アンカーフレームと地中梁配筋のとりあいは、鉄筋加工前にご検討ください。 ⚠ ベースパックに鉄筋を結束しないでください。 ⚠ 据付けたベースパックに無理な力や衝撃を与えないでください。 ⚠ 警告 アンカーボルトに溶接および溶接棒を触れさせないでください。
7	コンクリート打設	●	●	コンクリート打設 据付け位置・高さの確認 ⚠ コンクリート打設前に確認してください。 位置調整 必要に応じて行ってください。
	コンクリート打設	●	●	コンクリート打設 アンカーフレームに無理なコンクリート打設圧力が加わらないようにしてください。 ⚠ コンクリート設計基準強度は21N/mm ² (24N/mm ²)以上としてください。 鉄骨建入れ直し用アンカー筋を柱脚付近の基礎梁に埋め込んでください。
8	レベルモルタル	●	●	レベルモルタル テンプレートを取り外してください。下地は清掃の上、湿潤状態としてください。 ⚠ ベースパックグラウトを使用してください。設置後、適切な養生を行ってください。 大きさはアンカーボルト間の2/3程度とし、高さは30mmを標準に施工願います。 レベルモルタルは2日以上養生してください。テンプレートを外した後のナットの保管をお願いします。
9	鉄骨建方	●	●	鉄骨建方 柱型コンクリート天端清掃 ⚠ 柱型コンクリート天端の清掃をお願いします。
	アンカーボルト本締め	●	●	アンカーボルト本締め ⚠ 建入れ直し時、ワイヤーの反力を直接鉄骨柱に取らないよう願います。 アンカーボルトの本締めをお願いします。
	注入枠設置	●	●	注入枠設置 ⚠ ベースプレート下部に異物が入ってないか確認してください。 ベースプレート外周を木材等で囲ってください。 ⚠ コンクリート天端は湿潤状態としてください。
10	グラウト注入	●	●	グラウト注入 注入枠と柱型コンクリートのすき間は、モルタル等でシールします。
	グラウト注入	●	●	グラウト注入 ベースパック指定施工店が施工します。
	立会い検査	●	●	立会い検査 グラウト注入の完了検査、チェックシートに承認をお願いします。 冬季の場合は養生をお願いします。
11	注入枠取り外し	●	●	注入枠取り外し ⚠ 注入枠等は、グラウト注入後24時間以上経ってから取り外してください。

⚠ 腰壁の配筋型枠、土間コン打設はグラウト注入後に施工願います。先に施工されますと、グラウトが注入出来なくなります。

⚠ 標準的な施工方法以外のアンカーボルト据付け方法を採用する場合は、当事者間(施工管理者・設計者等)で協議し、決定します。

ベースパックの施工工程

NT ... ベースパックNTに関連する説明の表記

1

事前打合せ・仮設 元請工事 ベースパック工事

事前打合せ

- 工程(施工手順・方法、役割分担・責任範囲)。
- 搬入経路、トラック種別、部材置場・保管場所、クレーンの手配。
- 捨てコンの厚さ(90mm以上)、杭頭処理、高上げ方法、配筋検討(梁配筋、ベース筋のかぶり)。
- 足場の手配、先組の可否(高h寸法時)。初回入場時の必要書類(各種免許の携帯またはコピー)、安全教育。



現場工事管理者

ベースパック・セレクトベース指定施工店

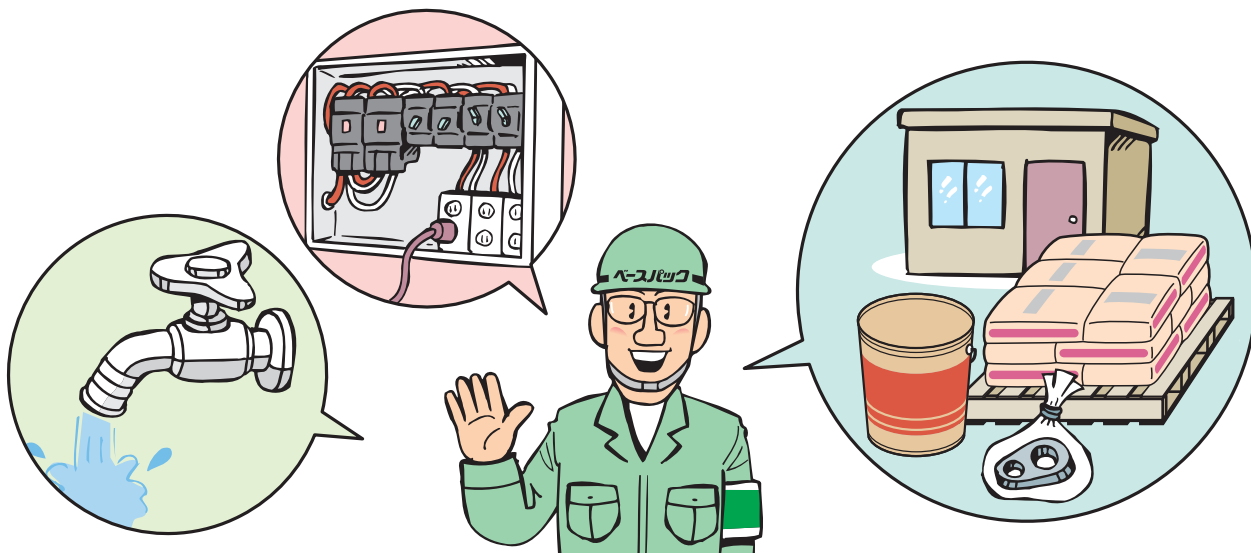


仮設・保管

- ベースパック据付け時迄に水道水、電源(100V)、また必要に応じ、足場の用意をお願いします。

水道水、100V電源の確保

保管場所の確保 (水に濡れない場所に保管)



1 事前打合せ・仮設

2 地業(捨てコン)

3 墨出し

4 荷卸し材料配り

5 アンカーボルト据付け

6 配筋型枠

7 コンクリート打設

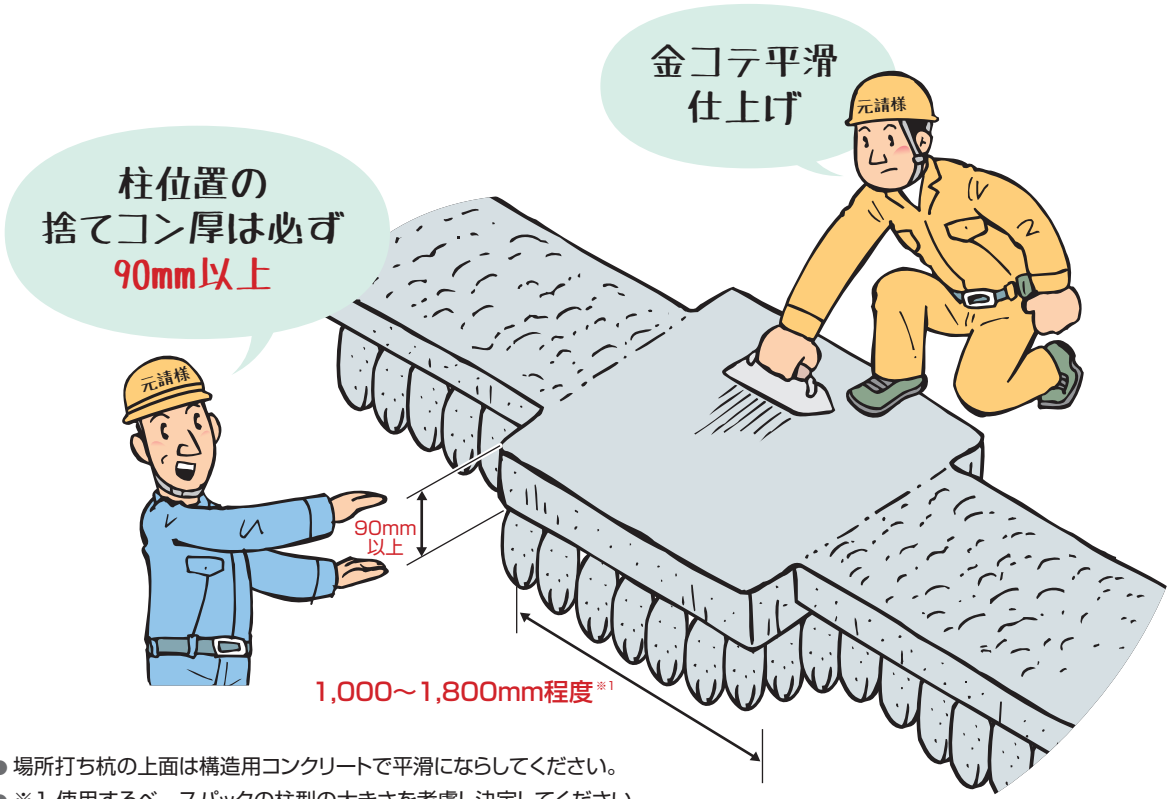
8 レベルモルタル

9 鉄骨建方

10 グラウト注入工事

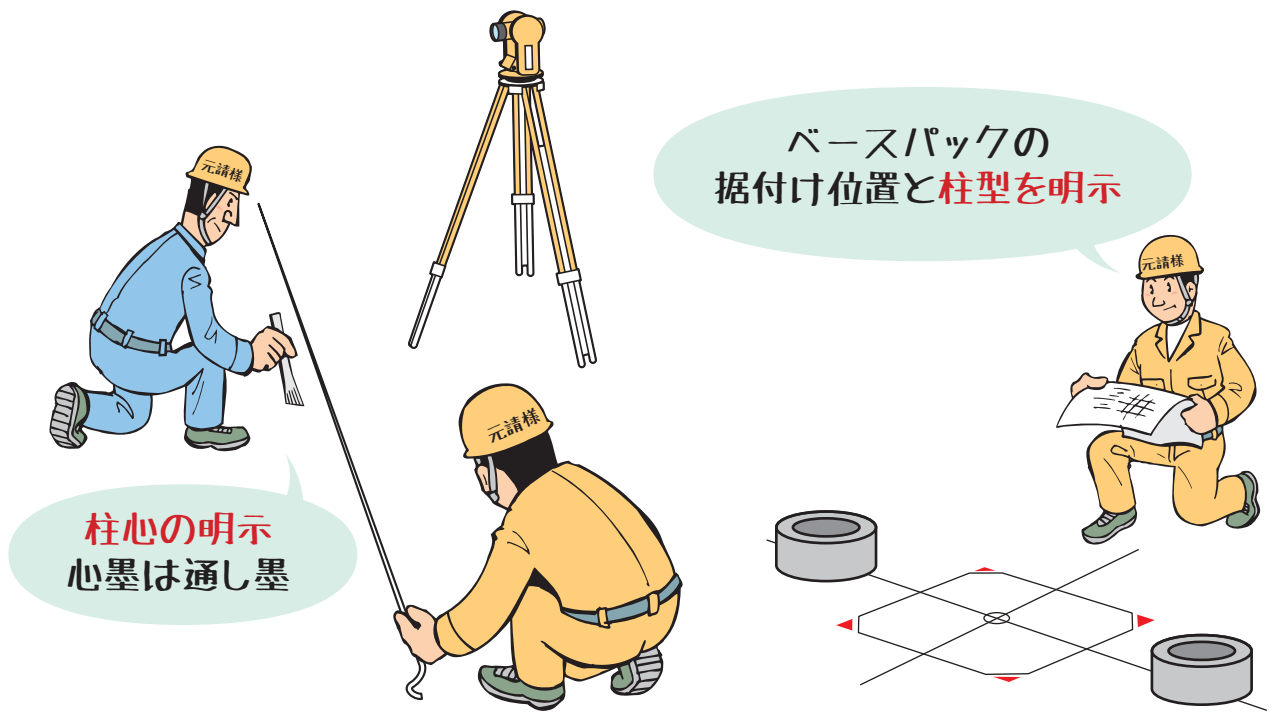
11 注入栓取り外し

2 地業(捨てコン) [元請工事]



- 場所打ち杭の上面は構造用コンクリートで平滑にならしてください。
- ※1 使用するベースパックの柱型の大きさを考慮し決定してください。

3 墨出し [元請工事]



4

荷卸し・材料配り 元請工事 ベースパック工事

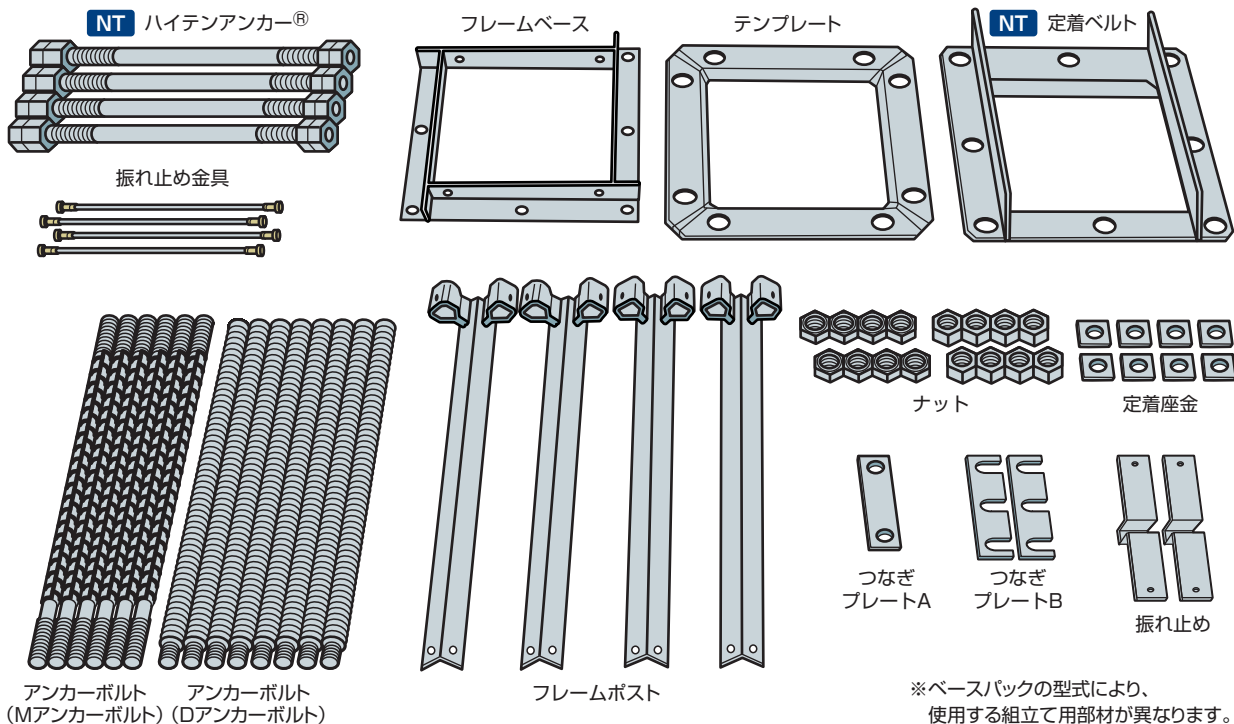
荷卸し

- 部材の検収をします。
(使用部材と納品書の照合—サイズ・数量・形状等)
- アンカーフレーム組立て用部材の振り分けをします。
- 注入座金、グラウト材の保管をお願いします。

材料配り

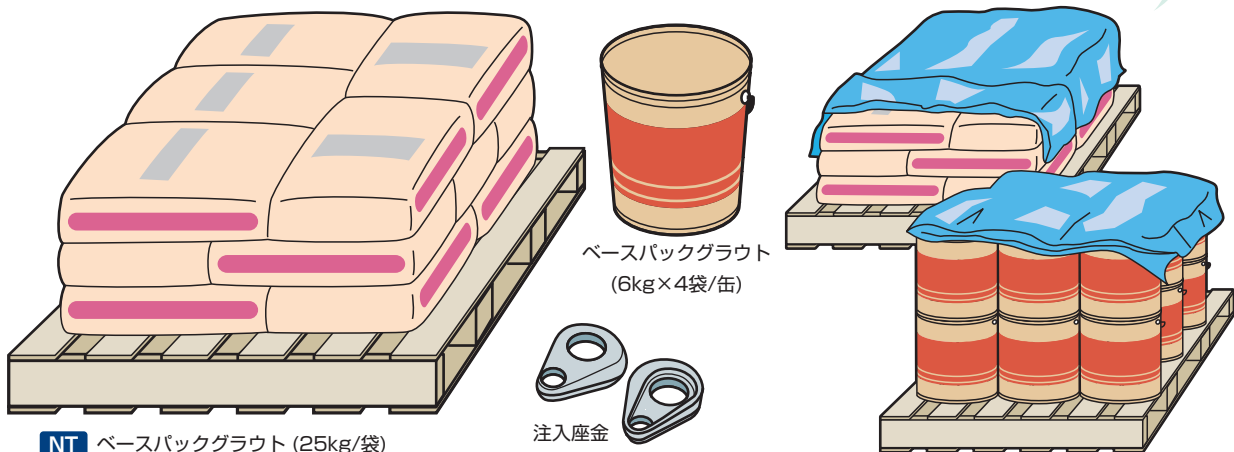
- 設置位置、部材種類・サイズ・数量の確認をします。
- 運搬路の安全を確認します。
- 運搬具・揚重機(部材重量の確認)の手配をお願いします。

〈組立て用部材〉



〈グラウト関連部材〉

- NT用グラウト材荷姿はセメント袋入りです。
水に濡れない場所に保管、養生をお願いします。



1 事前打合せ仮設

2 地業(捨コン)

3 墨出し

4 荷卸し・材料配り

5 アンカーボルト据付け

6 配筋型枠

7 コンクリート打設

8 レベルモルタル

9 鉄骨建方

10 グラウト注入工事

11 注入栓取り外し

5 アンカーボルト据付け 元請工事 ベースパック工事

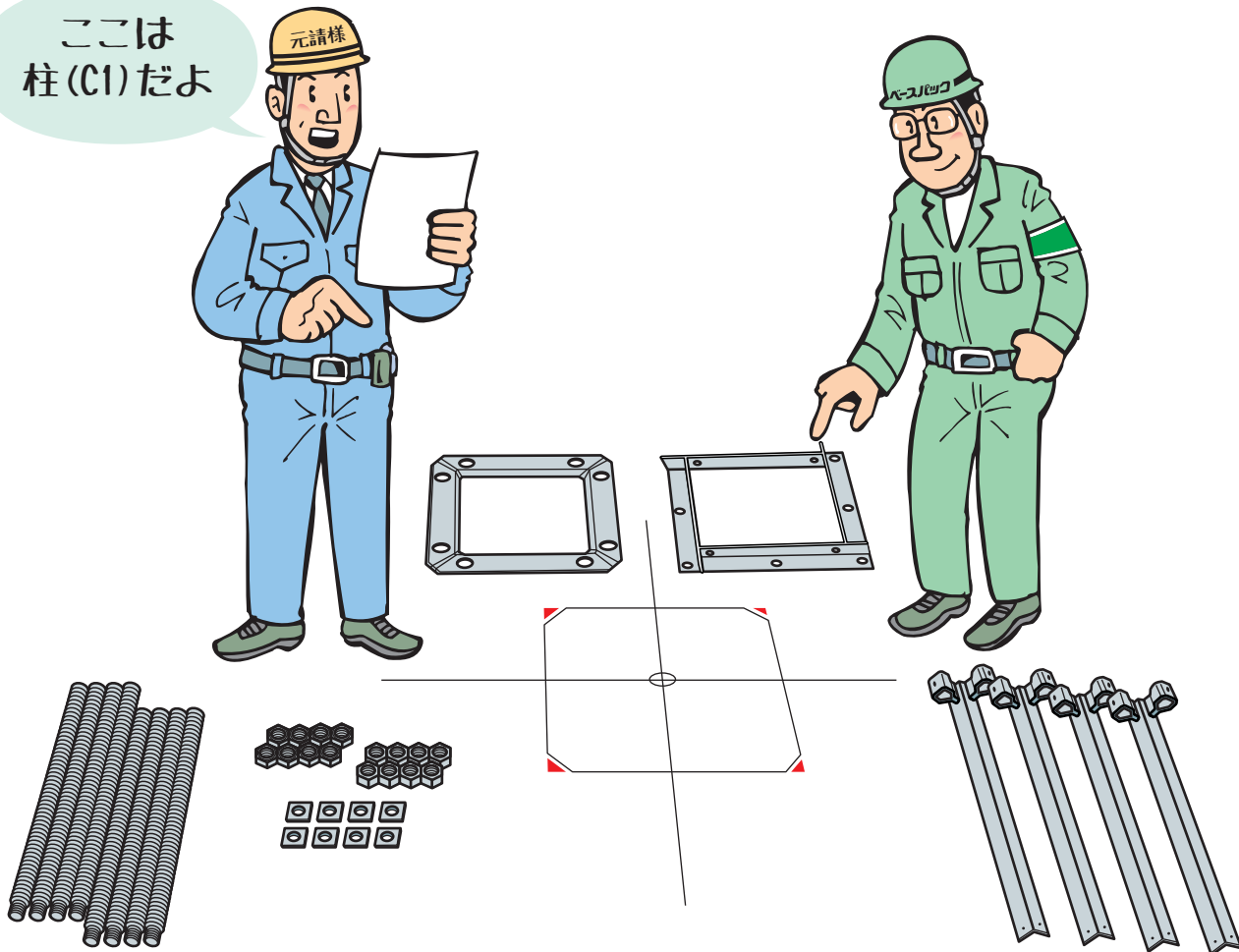
事前準備

わき水や
たまり水の処置は
事前をお願いします

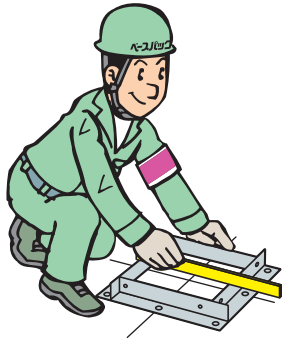
アンカーボルト据付けは、ベースパック・セレクトベース指定施工店が行います。工事管理者は、立合い・指示・承認をお願いします。



ここは
柱(C1)だよ

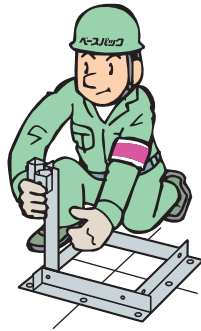


標準施工 I (手組み施工)



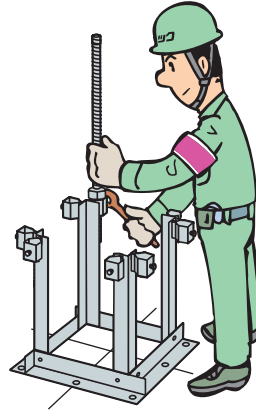
1 フレームベースの設置

- 現場状況により、組立て開始時にフレームベースを捨てコンに固定する場合があります。
- H形鋼用ベースパックは、フレームベースの向きに注意して設置する。



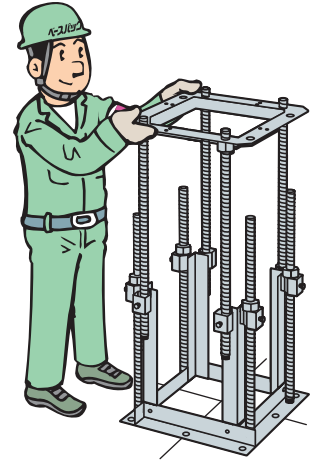
2 フレームポストの組立て

- **NT** NTの場合フレームポスト設置後定着ベルト受け金物の設置の際高さ指示をお願いします。(管理許容差 $-4\text{mm} \leq e \leq +5\text{mm}$)



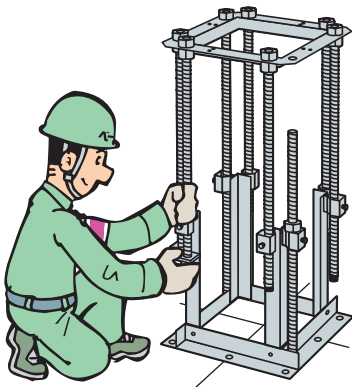
3 アンカーボルトの組立て

- Dアンカーボルトは、ナットをホルダー上まで下ろして高さを保持しながら作業を行う。

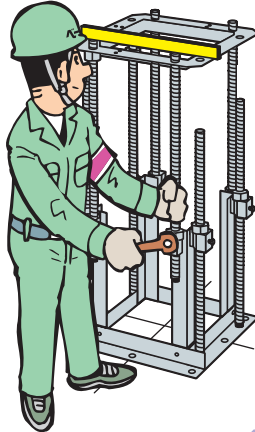


4 テンプレートの仮設置

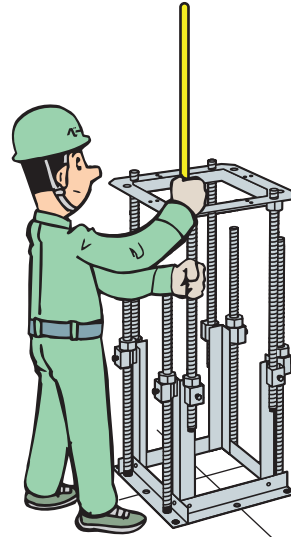
- H形鋼用ベースパックは、テンプレートの向きに注意して設置する。



7 定着座金の取付け

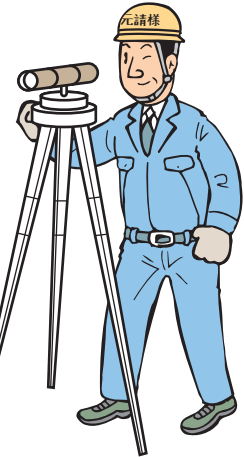


6 アンカーボルトの高さ調節



5 アンカーボルトのレベル確認

- アンカーボルト据付け高さ(レベル)の指示をお願いします。(管理許容差 $-3\text{mm} \leq e \leq +10\text{mm}$)
- **NT** NTの場合 $-10\text{mm} \leq e \leq +10\text{mm}$



1 事前打合せ(仮仮)

2 地業(捨てコン)

3 墨出し

4 荷卸し材料配り

5 アンカーボルト据付け

6 配筋型枠

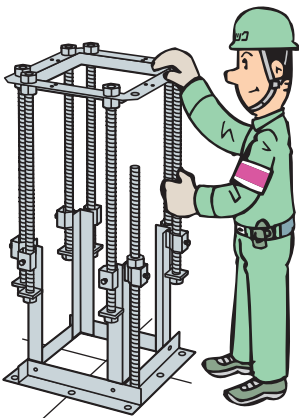
7 コンクリート打設

8 レベルモルタル

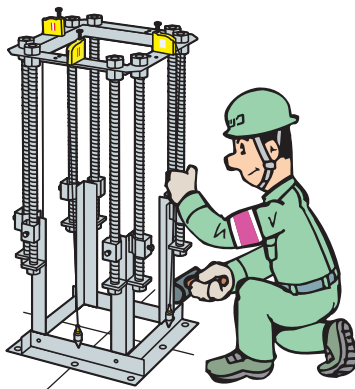
9 鉄管建方

10 グラウト注入工事

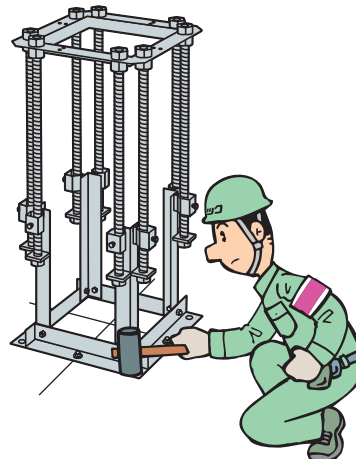
11 注入栓取り外し



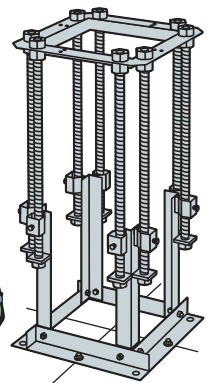
8 アンカーボルトの固定



9 水平位置調節



10 アンカーフレームの固定

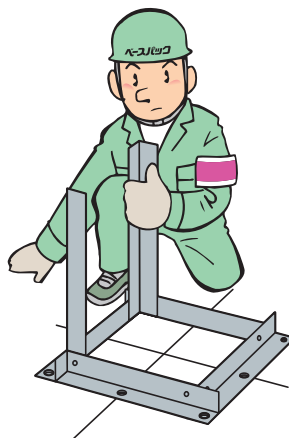


11 セット完了

標準施工Ⅱ (レッカー組み施工)

1 NT フレームベース、フレームポスト設置

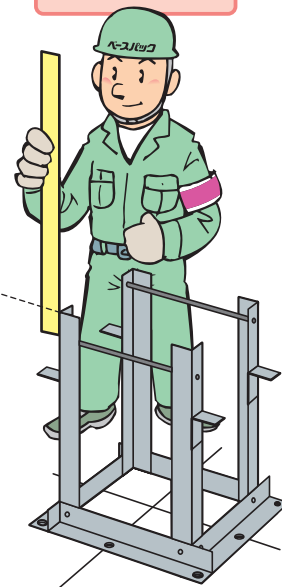
- フレームベースの中心を柱心墨に合わせる。
(X、Y通りとも)
- フレームベースを水平に。(水準器で確認し、ライナー等で調整する)
- フレームポストは垂直に立てる。
- 捨てコンアンカーでフレームベースを固定する。



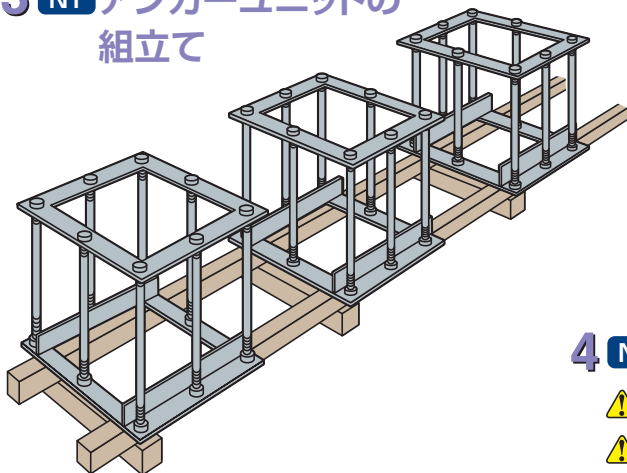
2 NT ベルト受け金物の位置決め

- 定着ベルト位置を確認し、レベル計で位置決めする。
- 対角に2箇所を測定する。(フレームポストに位置を印す。)
- 水準器で4箇所のレベルを合わせる。
- 位置確認後、フレームポストに固定(溶接)する。

ベルト受け金物の
高さ指示をお願いします。



3 NT アンカーユニットの 組立て

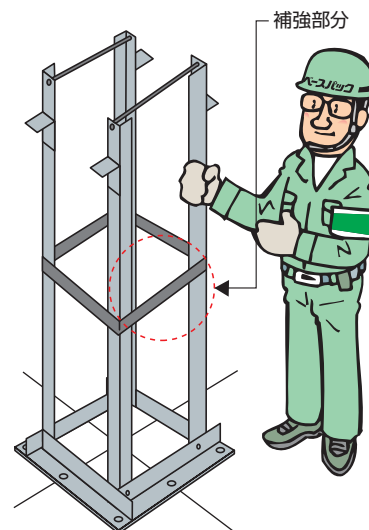
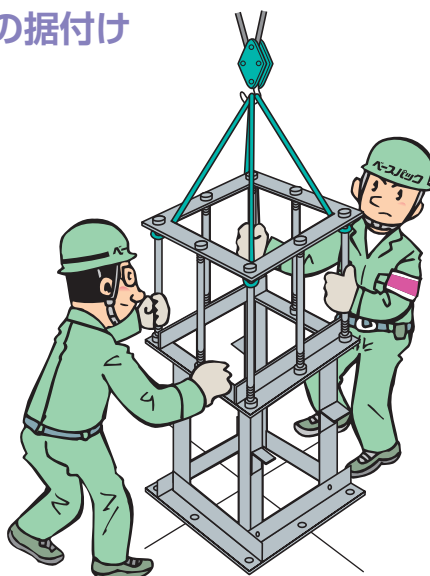


4 NT アンカーユニットの吊上げ

- ⚠ 警告 吊荷重量のチェック。
- ⚠ 玉掛け位置に注意する。テンプレートには不可。
対角のハイテンアンカーに掛け2点吊り以上とする。
- ⚠ ハイテンアンカー、ワイヤーロープ(ナイロンスリング)の養生をする。

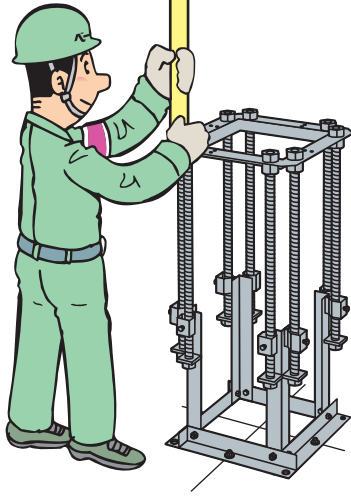
5 NT アンカーユニットの据付け

- 必要に応じて(高h寸法の場合など)
フレームポストを補強する。
- 架台に吊り込む。
- アンカーユニットの位置決め。
- ベルト固定金具(対角に
2ヶ所)で仮固定する。
- ベルト受け金物と定着ベルトを
固定する。



精度確認

1 据付け高さの確認



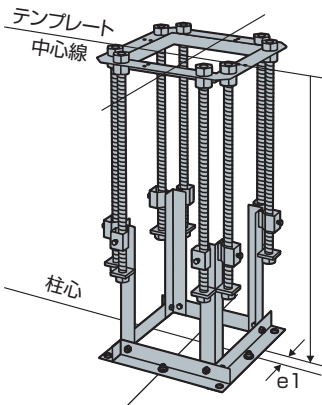
高さの確認



- 基準高さに対する誤差の許容範囲
 $-3\text{mm} \leq e \leq +10\text{mm}$
NT NTの場合許容範囲は $-10\text{mm} \leq e \leq +10\text{mm}$

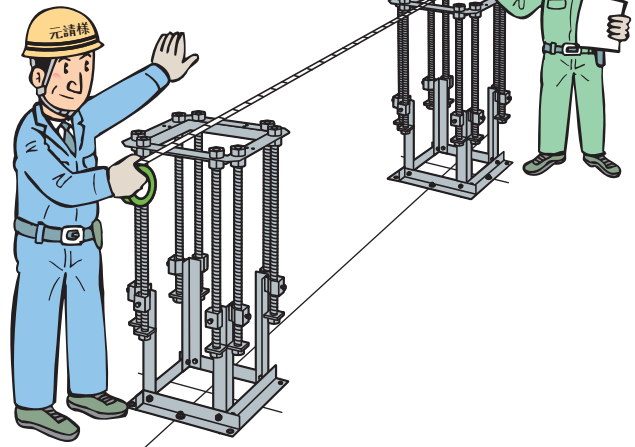
⚠ アンカーボルトの余長はアンカーボルトの種類・径によって異なります。

2 据付け位置(柱心間寸法)の確認

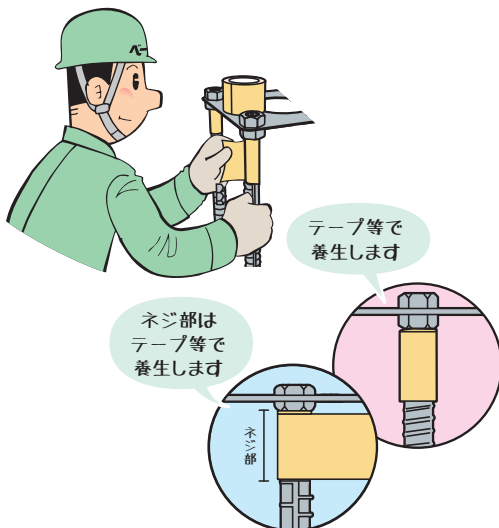


テンプレートの中心線と地墨等の柱心の標準許容差は、 $-2\text{mm} \leq e1 \leq +2\text{mm}$ とする。

立会い検査



3 ネジ部の養生



承認・サイン



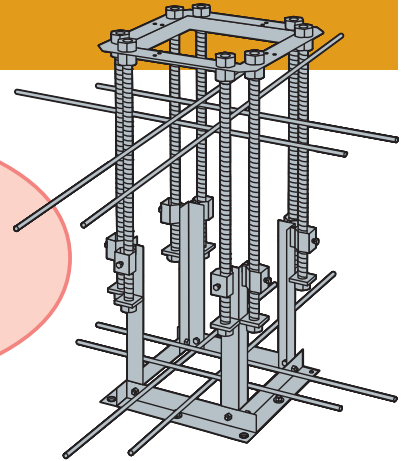
- 1 事前打合せ(仮設)
- 2 地業(捨てコン)
- 3 墨出し
- 4 荷卸し材料配り
- 5 アンカーボルト据付け
- 6 配筋型枠
- 7 コンクリート打設
- 8 レベルモルタル
- 9 鉄骨建方
- 10 グラウト注入工事
- 11 注入栓取り外し

6

配筋・型枠 [元請工事]



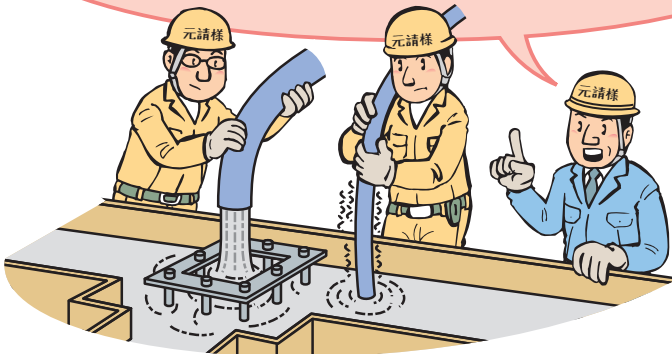
- ⚠ ベースパックに鉄筋を結束しない!
- ⚠ ベースパックに衝撃を与えない!
- ⚠ アンカーボルトに溶接しない!
- ⚠ テンプレートははずさない!



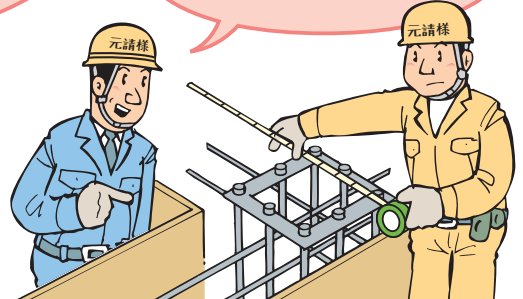
7

コンクリート打設 [元請工事]

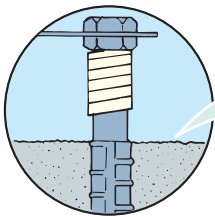
- ⚠ ベースパックに無理なコンクリート打設圧力が加わらないようにする!
- ⚠ テンプレートの上に乗らない!
- ⚠ ベースパックにバイブレーターを接触させない!



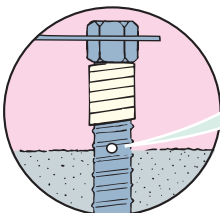
柱心間寸法を
コンクリート打設前に
必ず確認



テンプレートの中心線と柱心の
コンクリート打設後の管理許容差は $-7\text{mm} \leq e \leq +7\text{mm}$
NT NTの場合の管理許容差は $-9\text{mm} \leq e \leq +9\text{mm}$

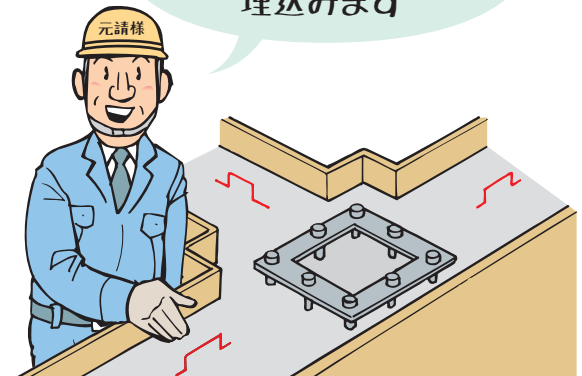


コンクリート打設高さは、
異形鉄筋部まで



ねじ鉄筋の場合は、
マーカーポイントまで

鉄骨建入れ直し用
アンカー筋を
基礎梁の柱脚付近に
埋込みます



8

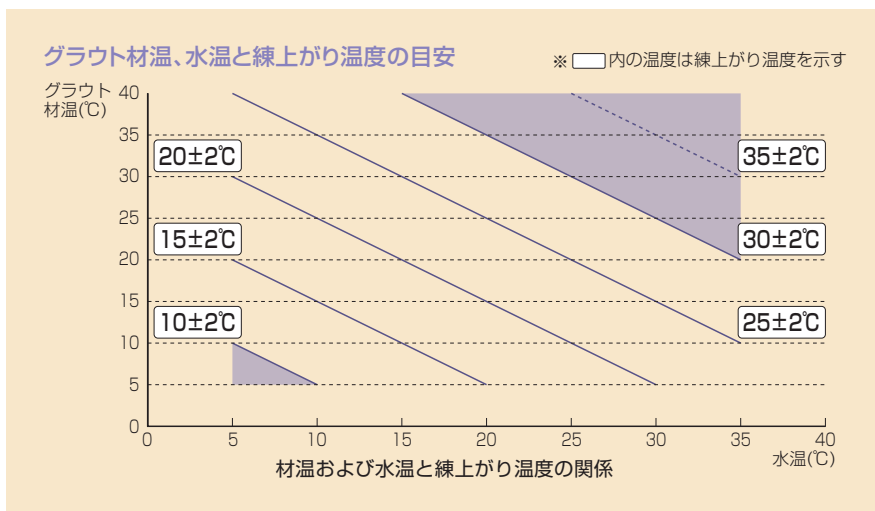
レベルモルタル [元請工事]

- テンプレートをはずしてください ⚠ ナットの紛失にご注意ください。
- コンクリート柱型天端の処理 ⚠ 清掃のうえ、湿潤状態としてください。
- レベルモルタルの設置

- ⚠ レベルモルタルにはベースパックグラウトをご使用ください。
- ⚠ **警告**：ベースパックグラウト取扱い時には、ゴム手袋と保護メガネ、防塵マスクをご使用ください。
- ⚠ **警告**：ベースパックグラウトが皮膚に付着した場合は、早急に水洗いしてください。
- ⚠ **警告**：ベースパックグラウトが目に入った場合は失明の恐れがあります。早急に水洗いし、医師等の手当を受けてください。

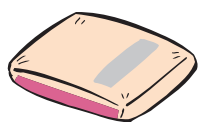
レベルモルタルの作り方

- ⚠ ベースパックグラウトは気温5℃～35℃、水温10℃～35℃の範囲で使用してください。
- ⚠ 夏季・冬季において気温が管理基準値を超える場合は、練上がり温度(10℃～30℃)で管理する事とし状況に応じた適切な養生などをお願いします。
- ⚠ 鋼製レベラーを使用する際には、各メーカーにお問合せください。



材料及び施工具

① **NT** ベースパックグラウト (25kg/袋)

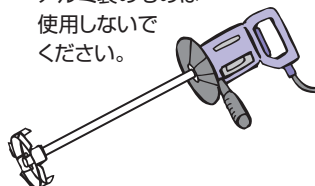


② ベースパックグラウト (6kg×4袋/缶)



③ 電動攪拌機

⚠ 電動攪拌機の羽根がアルミ製のものは使用しないでください。



④ ゴム手袋



⑤ 保護メガネ



⑥ 防塵マスク



- 1 事前打合せ・仮設
- 2 地業(捨てコン)
- 3 墨出し
- 4 荷卸し・材料配り
- 5 アンカーボルト据付け
- 6 配筋型枠
- 7 コンクリート打設
- 8 レベルモルタル
- 9 鉄骨建方
- 10 グラウト注入工事
- 11 注入栓取り外し

8-1. 硬練りの場合

表1 硬練り

グラウト	6kg袋	25kg袋
水分量	0.7ℓ	2.7~2.9ℓ

1 ベースパックグラウト1袋に対して所定量の水道水を入れます
※水分量は表1を参照

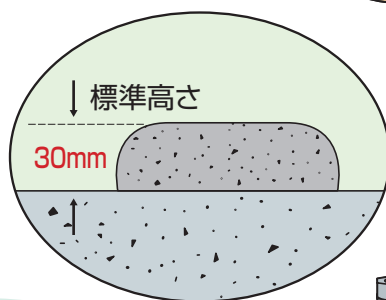


2 ベースパックグラウトを入れます
⚠ レベルモルタルを設置するコンクリート面は事前に必要な処理をしてください。

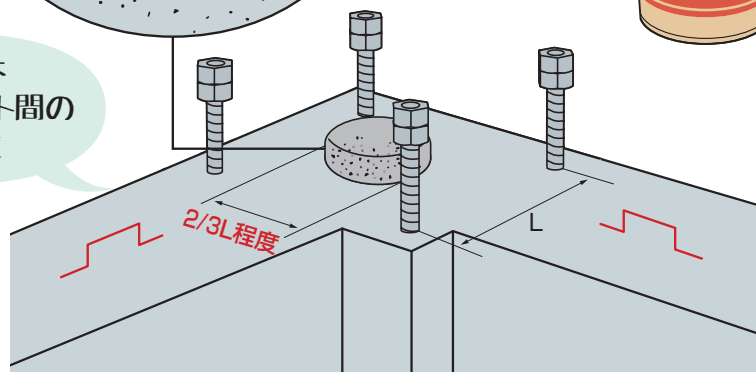
3 電動攪拌機で缶の底に練り玉ができないように**3分間**練ってください



4 アンカーボルト間の**2/3程度**の大きさに設置してください
⚠ 養生期間は**2日間(48時間)**以上
⚠ 全面設置は不可



大きさはアンカーボルト間の**2/3程度**



8-2. 軟練りの場合

1 ベースパックグラウト1袋に対して所定量の水道水を入れます
※水分量は表2を参照

2 ベースパックグラウトを入れます

3 電動攪拌機で缶の底に練り玉がでないように**2分間**練ってください



4 注入枠(ポイド等)にベースパックグラウトを流し込んでください
※グラウト量は表3を参照

⚠ 練り混ぜ後**15分以上**経過したものは廃棄してください。

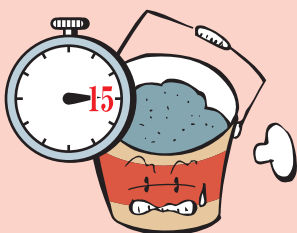


表2 軟練り

グラウト	6kg袋	25kg袋
水分量	1~1.1ℓ	4~4.6ℓ

表3 ポイドの径とグラウト量の目安^{※1※2※3}

ポイドの径	袋(6kg/袋)	袋(25kg/袋)
φ150	2	—
φ200	4	—
φ250	5	—
φ300	8	1.7
φ350	10	2.4
φ400	13	3.1
φ450	16	3.9
φ500	20	4.8
φ550	—	5.8
φ600	—	6.8
φ650	—	8.0

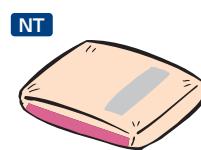
※1. 本表は柱数を10柱として計算しています。

※2. レベルモルタルの高さを30mmとして計算しています。

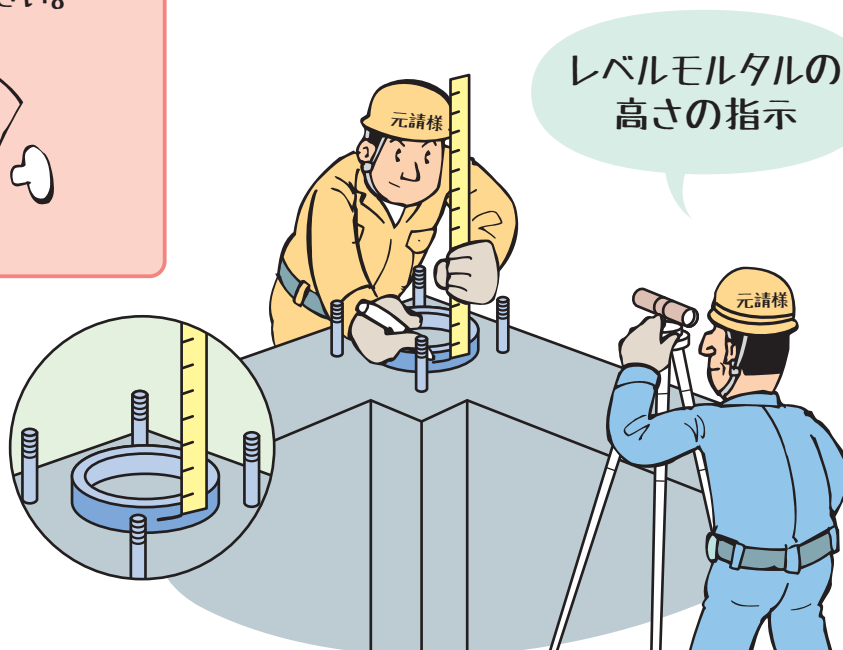
※3. 練り上がり後の体積はおおよそ以下の通りです。



約0.012m³(1缶)



約0.0125m³(1袋)



1 事前打合せ・仮設

2 地業(捨てコン)

3 墨出し

4 荷卸し・材料配り

5 アンカーボルト据付け

6 配筋型枠

7 コンクリート打設

8 レベルモルタル

9 鉄骨建方

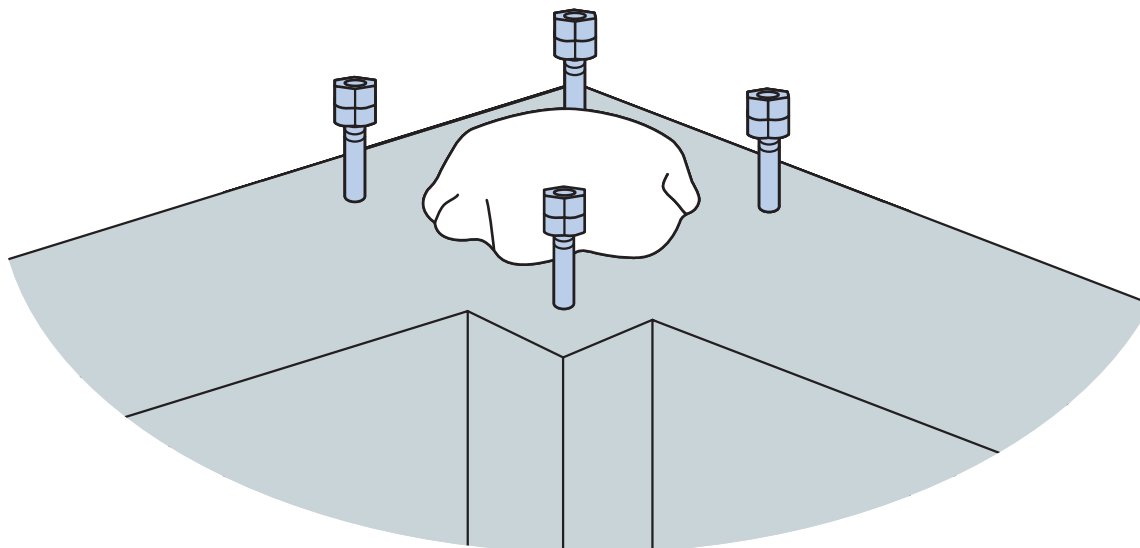
10 グラウト注入工事

11 注入枠取り外し



8-3. 養生

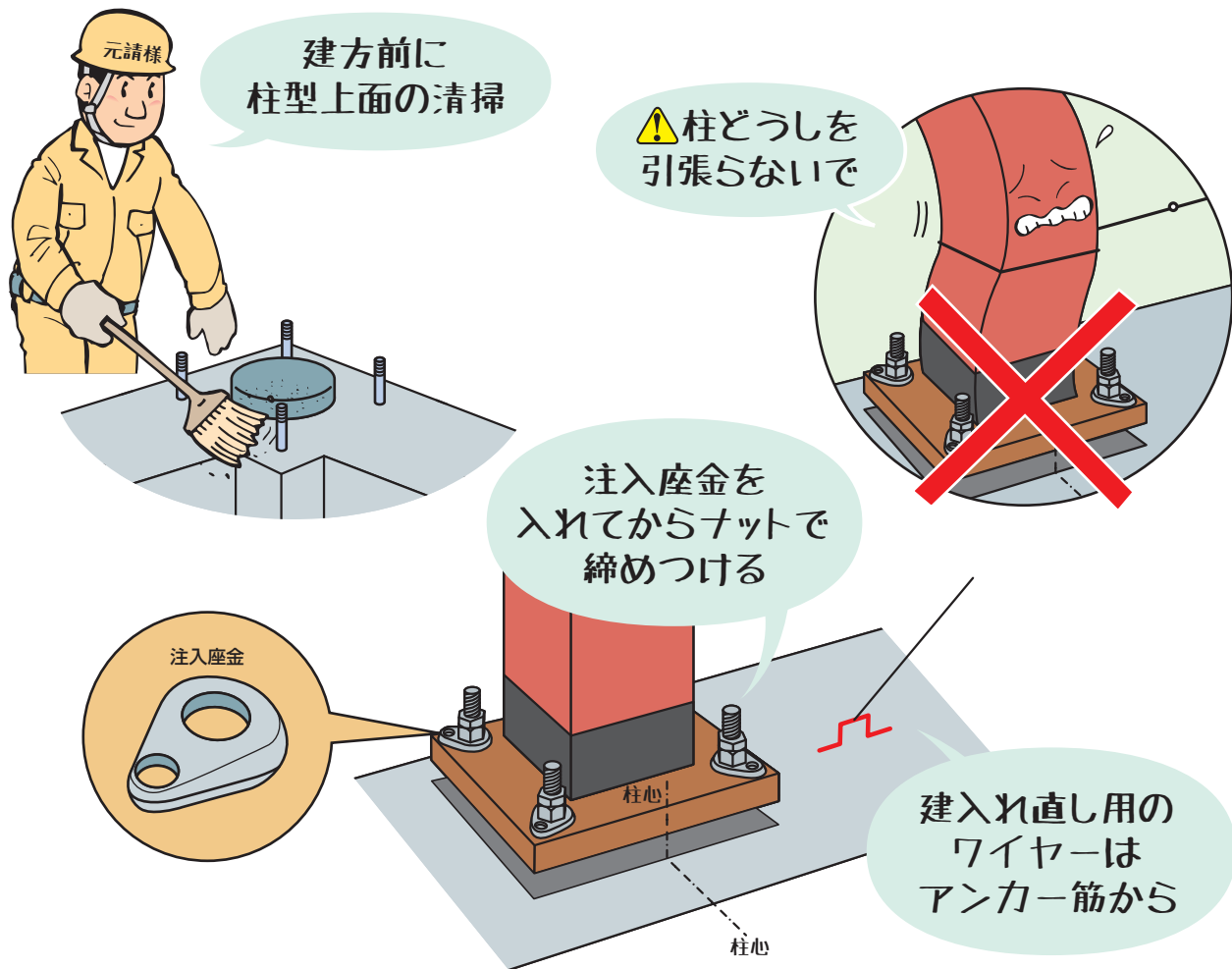
- ⚠ レベルモルタルを設置後30分以内にひび割れ防止のための防風等を目的とした養生を行ってください。(濡れウエス等による)(特に夏季は直射日光等の条件下ではひび割れの発生が加速される可能性があります。)



9

鉄骨建方 [元請工事]

■ **清掃** ⚠️ 柱型天端を清掃してください。



■ 鉄骨建方

- ⚠️ **警告**：注入座金は、ベースパックサイズによって異なるため、適合したものを使用してください。
- ⚠️ **警告**：アンカーボルトのナットからの出がMアンカーは10mm以上
Dアンカーは15mm以上*
NTは20mm以上であることを確認してください。
※D51の場合は20mm以上

- ⚠️ ベースプレートのルーズホール(ボルト孔)には異物が入らないようにしてください。
- ⚠️ 注入座金以外のものを使用しないでください。
- ⚠️ ベースプレートの外に注入座金が出ないようにして下さい。

注入座金(PM〇〇)

Mアンカーボルトに使用します

注入座金(PD〇〇)

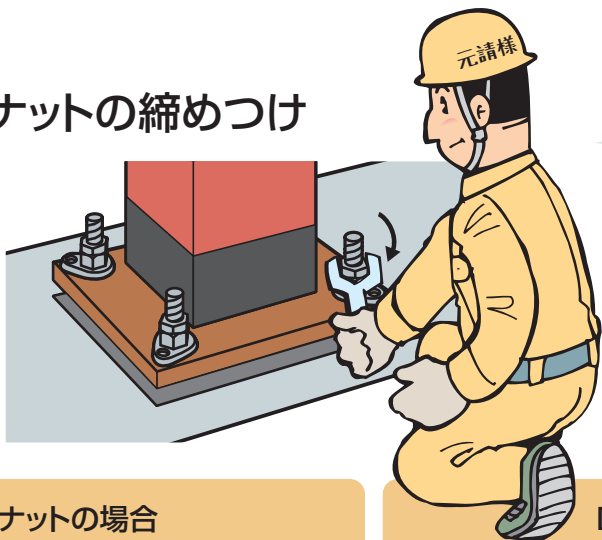
Dアンカーボルトに使用します

NT 注入座金(PH〇〇)

ハイテンアンカーに使用します

- 1 事前打合せ・仮設
- 2 地業(捨てコン)
- 3 墨出し
- 4 荷卸し・材料配り
- 5 アンカーボルト据付け
- 6 配筋型枠
- 7 コンクリート打設
- 8 レベルモルタル
- 9 鉄骨建方
- 10 グラウト注入工事
- 11 注入枠取り外し

■ ナットの締めつけ

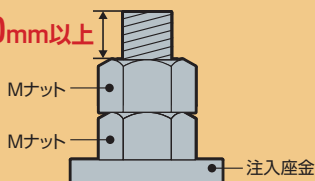


アームの長さ40cm~50cm
NT NTの場合80cm~90cm
 程度のスパナを使用し、
 全身の力を入れる程度の
 締め付けを行う

⚠ アンカーボルトの本締めは、グラウト材の充填前に行ってください。
 積極的に締め付け力を導入するものではありません。

Mナットの場合

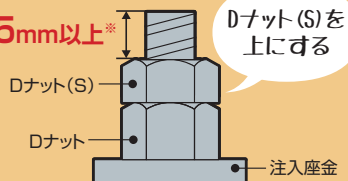
10mm以上



⚠ Mナットは、メートルねじのアンカーボルトに使用します。(ダブルナットタイプ)

Dナットの場合

15mm以上*



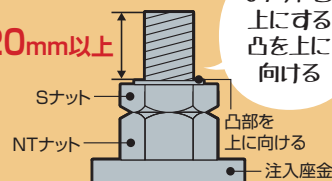
⚠ Dナット、Dナット(S)は、ねじ鉄筋のアンカーボルトに使用します。(ダブルナットタイプ)

⚠ Dナット、Dナット(S)は、ねじ鉄筋アンカーボルトサイズが適合しているかどうかを確認の上、取付け願います。

*D51は20mm以上

NT NTナットの場合

20mm以上



⚠ NTナット・Sナットはハイテンアンカーに使用します。

Sナットを上にする
 凸を上に向ける

※ナットの緩み止め：ナットはダブルナットを標準とします。その場合は、上側のナット(緩み止めナット)も締めつけてください。

■ 注入枠の設置

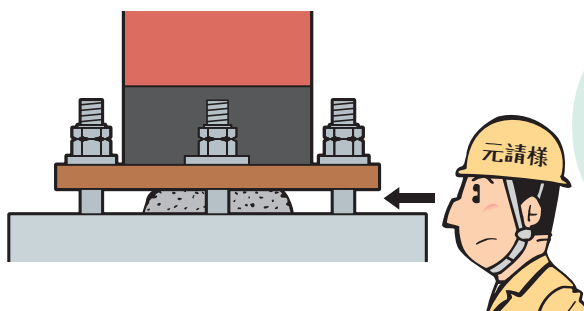
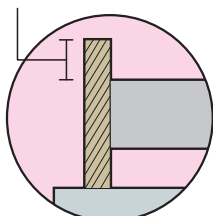
⚠ コンクリート天端は湿潤状態としてください。



- 空気が抜けにくく、空洞ができる
- 強度の弱いモルタルがベースプレートの下に入る

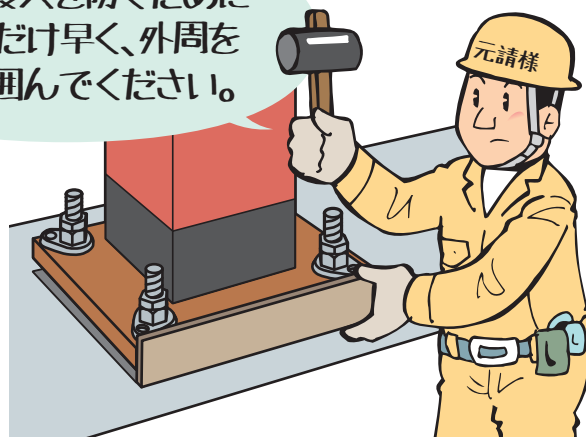
注入枠は、注入作業向上のためベースプレート上端より30mm程度高く設置願います。また注入時のグラウト材側圧に耐えられるよう、はらみ防止策をお願いします。

30mm程度



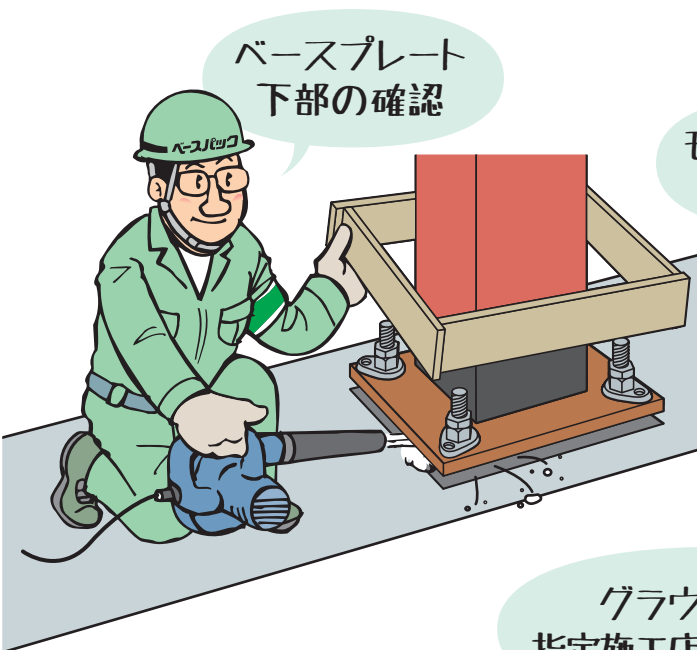
すき間に異物が入り込んでいないか確認し、異物があれば除去してください。

ゴミの侵入を防ぐためにできるだけ早く、外周を木材で囲ってください。



10 グラウト注入工事

グラウト注入はベースパック・セレクトベース指定施工店が行います

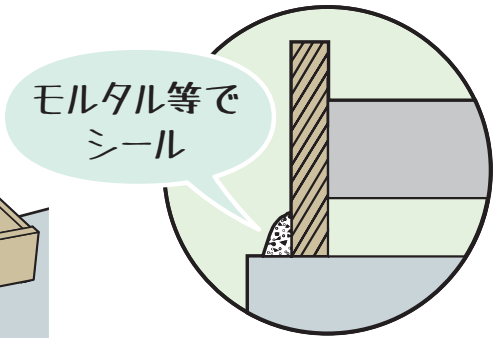


⚠ ベースプレート下部に異物がある場合は、事前に取り除きます。

⚠ 夏季・冬季において気温が管理基準値を超える場合は、練上がり温度(10℃~30℃)で管理する事とします。

元請様へのお願い

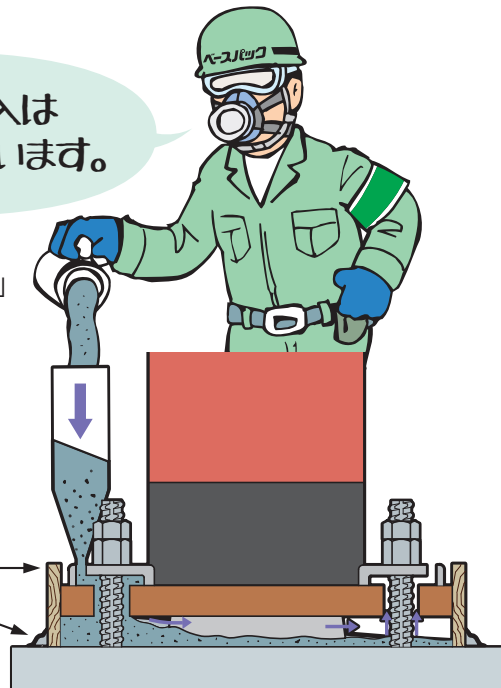
状況に応じた適切な養生などをお願いします。



※グラウトの注入前に水湿しを行います。

グラウト注入は指定施工店が行います。

※水量、攪拌時間はP12「8-2軟練りの場合」と同様。



木材等による注入枠
モルタル等によるシール



承認

- 1 事前打合せ・仮設
- 2 地業(捨てコン)
- 3 墨出し
- 4 荷卸し・材料配り
- 5 アンカーボルト据付け
- 6 配筋・型枠
- 7 コンクリート打設
- 8 レベルモルタル
- 9 鉄管建方
- 10 グラウト注入工事
- 11 注入枠取り外し

11

注入枠取り外し [元請工事]

1 事前打合せ・仮設

2 地業(捨てコン)

3 墨出し

4 荷卸し材料配り

5 アンカボルト据付け

6 配筋型枠

7 コンクリート打設

8 レベルモルタル

9 鉄骨建方

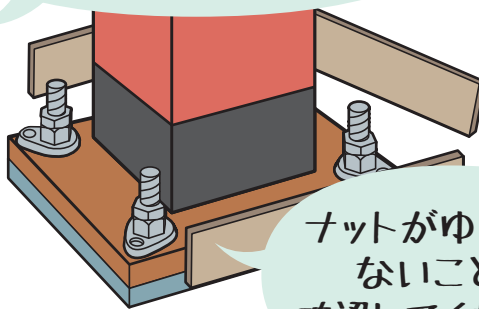
10 グラウト注入工事

11 注入枠取り外し



グラウト注入後、**24時間以上経過の後**、注入枠等を取り外してください。

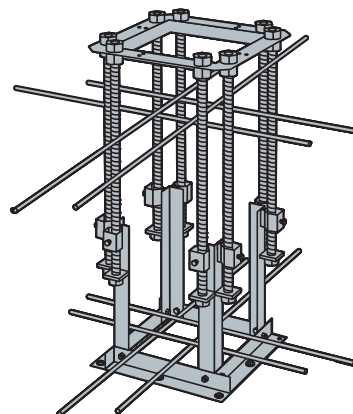
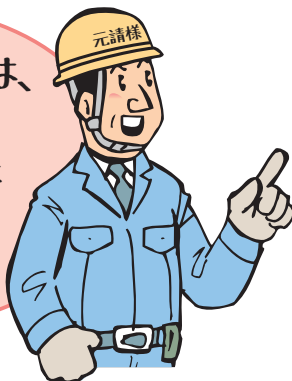
充てん状況の**確認**をお願いします。



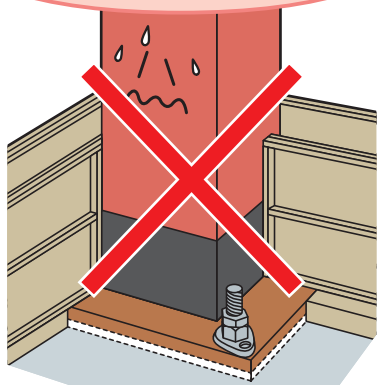
ナットがゆるんで**ないこと**を確認してください。

その他のご注意・お願い

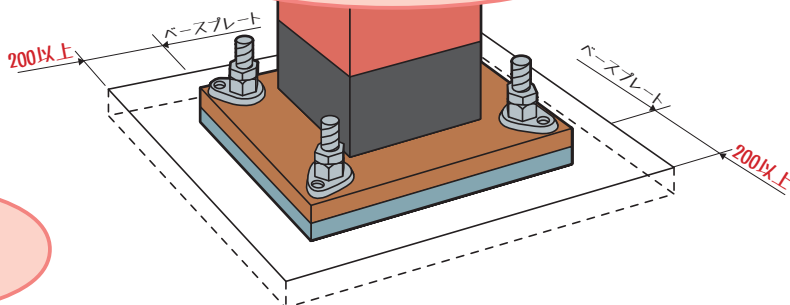
- ⚠ 基礎梁の配筋の検討は、事前をお願いします。
- ⚠ コンクリートの柱型はベースパック仕様でお願いします。



- ⚠ 腰壁型枠等の作業はグラウト注入後をお願いします。



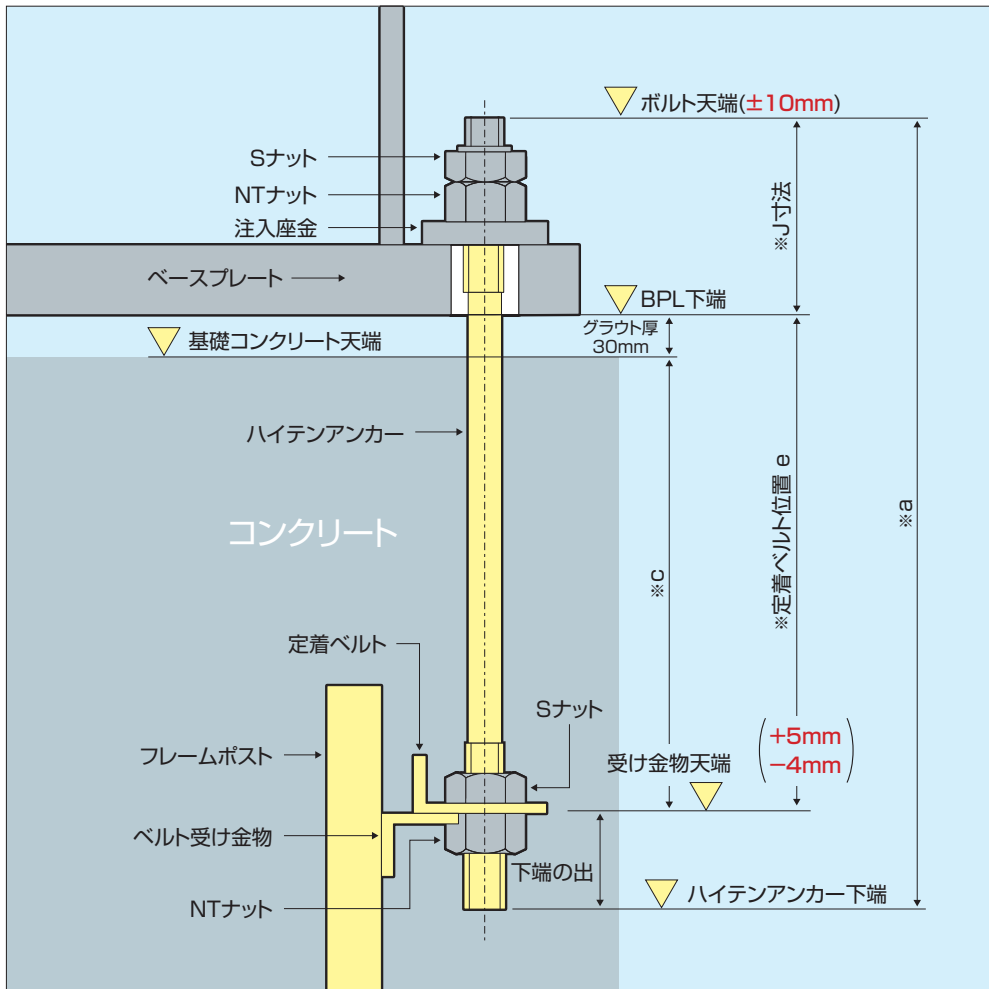
- ⚠ 鉄骨建方前に土間コンクリートを打設する場合、コンクリートはベースプレート周囲より**200mm以上**はなしてください。



- ⚠ グラウトの注入が**できない**

ベースパックNTの標準仕様

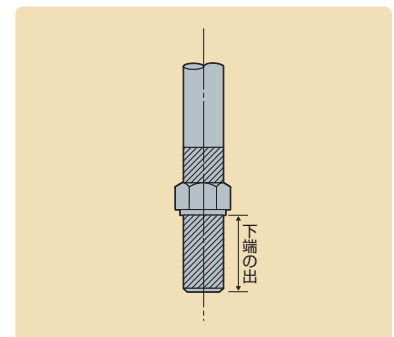
NT ハイテンアンカーのセット寸法



※
(P18～20 付表1・2・3参照)
(ベースプレート下端を基準とする)

NT ハイテンアンカーセット寸法(目安) 付表1

記号	全長	J寸法	定着ベルト位置	定着ベルト厚さ	Sナットフランジ高さ (Sナット高さ-3)	NTナット高さ	下端の出
	a	J	e				
M36	870	175	630	4.5	18	29	66.5
M39	880	175	630	4.5	20	31	76.5
M42	940	190	680	4.5	22	34	71.5
M45	950	190	680	4.5	24	36	81.5
M48	1,010	200	730	4.5	26	38	81.5
M52	1,030	220	730	4.5	28	42	81.5
M56	1,100	230	780	4.5	31	45	91.5
M60	1,170	250	830	4.5	33	48	91.5
M64	1,220	250	880	4.5	35	51	91.5



※セット寸法(目安)は4隅のアンカーボルト用
※ボルトの出寸法はSナット凸部先端より
ハイテンアンカー端部までの寸法

NT FX3 ハイテンアンカーの埋め込み長さ・J寸法および定着ベルト位置

付表2
単位：mm

ベースバック記号	ハイテンアンカー本数・呼び	ハイテンアンカー全長	J寸法	埋込長さ	定着ベルト位置
		a		c	e
30-19FX3	8-M36	870	175	600	630
35-16FX3	8-M36	870	175	600	630
35-19FX3	8-M39	880	175	600	630
35-22FX3	8-M42	940	190	650	680
35-25FX3	8-M42	940	190	650	680
40-16FX3	8-M42	940	190	650	680
40-19FX3	8-M45	950	190	650	680
40-22FX3	8-M48	1,010	200	700	730
40-25FX3	8-M48	1,010	200	700	730
45-16FX3	8-M45	950	190	650	680
45-19FX3	8-M48	1,010	200	700	730
45-22FX3	8-M52	1,030	220	700	730
45-25FX3	8-M52	1,030	220	700	730
45-28FX3	8-M56	1,100	230	750	780
50-19FX3	8-M52	1,030	220	700	730
50-22FX3	8-M56	1,100	230	750	780
50-25FX3	8-M56	1,100	230	750	780
50-28FX3	8-M60	1,170	250	800	830
50-32FX3	8-M64	1,220	250	850	880
55-19FX3	8-M56	1,100	230	750	780
55-22FX3	8-M60	1,170	250	800	830
55-25FX3	8-M60	1,170	250	800	830
55-28FX3	12-M56	1,100	230	750	780
55-32FX3	12-M56	1,100	230	750	780
60-19FX3	12-M48	1,010	200	700	730
60-22FX3	12-M52	1,030	220	700	730
60-25FX3	12-M56	1,100	230	750	780
60-28FX3	12-M56	1,100	230	750	780
60-32FX3	12-M60	1,170	250	800	830
65-22FX3	12-M56	1,100	230	750	780
65-25FX3	12-M60	1,170	250	800	830
65-28FX3	12-M60	1,170	250	800	830
65-32FX3	12-M64	1,220	250	850	880
70-22FX3	16-M52	1,030	220	700	730
70-25FX3	16-M56	1,100	230	750	780
70-28FX3	16-M56	1,100	230	750	780
70-32FX3	16-M60	1,170	250	800	830
75-22FX3	16-M52	1,030	220	700	730
75-25FX3	16-M56	1,100	230	750	780
75-28FX3	16-M60	1,170	250	800	830
75-32FX3	16-M64	1,220	250	850	880

J寸法：ベースプレート底面からアンカーボルト天端
埋込長さ：コンクリート天端からベルト受け金物上端
定着ベルト位置：ベースプレート下端からベルト受け金物上端

NT S3 ハイテンアンカーの埋め込み長さ・
J寸法および定着ベルト位置

付表3
 単位：mm

ベースパック 記号	ハイテン アンカー 本数・呼び	ハイテン アンカー 全長	J寸法	埋込長さ	定着ベルト 位置
		a		c	e
30-19S3	4-M39	880	175	600	630
35-16S3	4-M45	950	190	650	680
35-19S3	8-M36	870	175	600	630
35-22S3	8-M36	870	175	600	630
35-25S3	8-M39	880	175	600	630
40-16S3	8-M36	870	175	600	630
40-19S3	8-M39	880	175	600	630
40-22S3	8-M39	880	175	600	630
40-25S3	8-M42	940	190	650	680
45-16S3	8-M39	880	175	600	630
45-19S3	8-M42	940	190	650	680
45-22S3	8-M42	940	190	650	680
45-25S3	8-M45	950	190	650	680
45-28S3	8-M48	1,010	200	700	730
50-19S3	8-M45	950	190	650	680
50-22S3	8-M45	950	190	650	680
50-25S3	8-M48	1,010	200	700	730
50-28S3	8-M52	1,030	220	700	730
50-32S3	8-M52	1,030	220	700	730
55-19S3	8-M45	950	190	650	680
55-22S3	8-M48	1,010	200	700	730
55-25S3	8-M52	1,030	220	700	730
55-28S3	8-M52	1,030	220	700	730
55-32S3	8-M56	1,100	230	750	780
60-19S3	8-M48	1,010	200	700	730
60-22S3	8-M52	1,030	220	700	730
60-25S3	8-M56	1,100	230	750	780
60-28S3	8-M56	1,100	230	750	780
60-32S3	8-M60	1,170	250	800	830
65-22S3	12-M45	950	190	650	680
65-25S3	12-M48	1,010	200	700	730
65-28S3	12-M52	1,030	220	700	730
65-32S3	12-M52	1,030	220	700	730
70-22S3	12-M48	1,010	200	700	730
70-25S3	12-M52	1,030	220	700	730
70-28S3	12-M52	1,030	220	700	730
70-32S3	12-M56	1,100	230	750	780
75-22S3	12-M52	1,030	220	700	730
75-25S3	12-M52	1,030	220	700	730
75-28S3	12-M56	1,100	230	750	780
75-32S3	12-M56	1,100	230	750	780

J寸法：ベースプレート底面からアンカーボルト天端
 埋込長さ：コンクリート天端からベルト受け金物上端
 定着ベルト位置：ベースプレート下端からベルト受け金物上端

NT FX3 重量表 付表4 単位: kg

ベースバックNT記号	アンカーユニット
30-19FX3	75
35-16FX3	78
35-19FX3	91
35-22FX3	108
35-25FX3	108
40-16FX3	109
40-19FX3	125
40-22FX3	147
40-25FX3	147
45-16FX3	128
45-19FX3	149
45-22FX3	176
45-25FX3	176
45-28FX3	215
50-19FX3	177
50-22FX3	218
50-25FX3	218
50-28FX3	259
50-32FX3	301
55-19FX3	220
55-22FX3	261
55-25FX3	261
55-28FX3	317
55-32FX3	317
60-19FX3	222
60-22FX3	262
60-25FX3	320
60-28FX3	320
60-32FX3	382
65-22FX3	322
65-25FX3	384
65-28FX3	384
65-32FX3	446
70-22FX3	341
70-25FX3	417
70-28FX3	417
70-32FX3	500
75-22FX3	345
75-25FX3	422
75-28FX3	504
75-32FX3	587

NT S3 重量表 付表5 単位: kg

ベースバックNT記号	アンカーユニット
30-19S3	53
35-16S3	69
35-19S3	76
35-22S3	76
35-25S3	89
40-16S3	78
40-19S3	91
40-22S3	91
40-25S3	108
45-16S3	93
45-19S3	110
45-22S3	110
45-25S3	126
45-28S3	148
50-19S3	128
50-22S3	128
50-25S3	150
50-28S3	177
50-32S3	177
55-19S3	131
55-22S3	153
55-25S3	179
55-28S3	179
55-32S3	219
60-19S3	154
60-22S3	181
60-25S3	221
60-28S3	221
60-32S3	263
65-22S3	192
65-25S3	224
65-28S3	264
65-32S3	264
70-22S3	226
70-25S3	266
70-28S3	266
70-32S3	325
75-22S3	269
75-25S3	269
75-28S3	330
75-32S3	330

H形鋼用(D51)

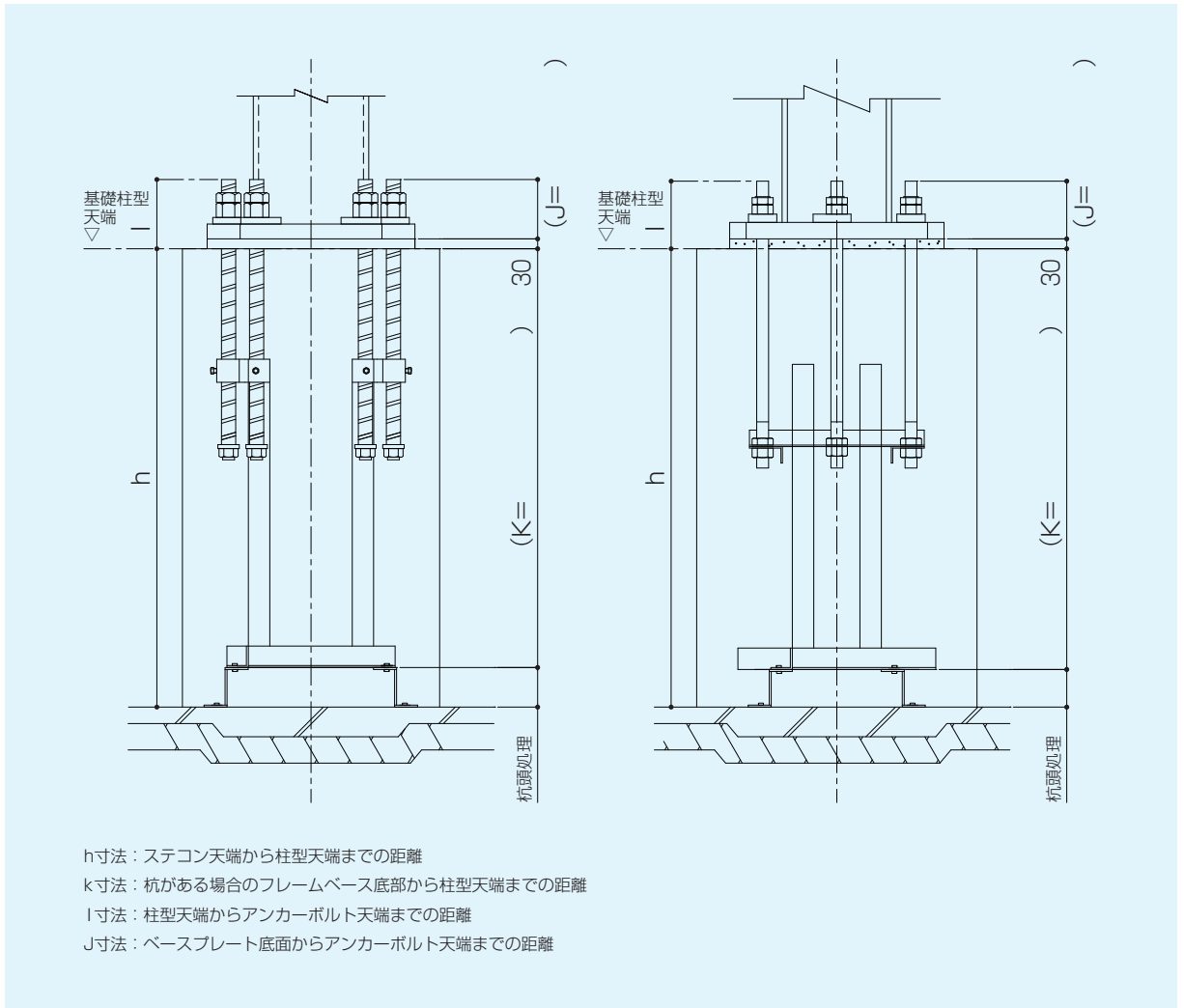
アンカーフレーム重量表 付表6 単位: kg

品名	重量
H4040-28V2	182
H6030-32V2	184
H7030-28V2	186
H8030-26V2	189
H4040-28V2Q	226
H6030-32V2Q	230
H7030-28V2Q	232
H8030-26V2Q	235
H4040-21V3	182
H4520-25V3	133
H5020-25V3	135
H5030-28V3	182

※ベースプレート、グラウト、架台は含んでいません。
 ※最低h寸法のときの標準重量です。
 架台使用時の架台を除く重量も同じです。

警告：玉掛時は、上記表の重量の2割増を想定する。
 アンカーユニット (テンプレート+アンカーボルト+NTナット+Sナット+定着ベルト)

■ ■ アンカーフレーム据付立面図



免責事項

万一ベースパックに問題が発生した場合には、下記免責事項をふまえた上で対応させていただきます。

1. 本マニュアル及び関連資料(総合カタログ、設計ハンドブック、設計施工標準図等)に記載した事項に反した設計・施工による不具合。
2. 標準仕様以外に設計者・施工業者の使用者が指示した仕様・施工方法・部材等に起因する不具合。
3. 瑕疵(かし)を発見後、すみやかに届けがされなかった場合。
4. ベースパック柱脚工法におけるアンカーボルトの据付け及びベースパックグラウト注入の施工をベースパック・セレクトベース施工技術委員会が認定した有資格者以外に作業させたことにより生じた不具合。
5. 不可抗力(天災、地変、地盤沈下、火災、爆発、騒乱など)により発生した不具合。
6. 本マニュアル及び関連資料に記載した製品の保管方法・有効期限が守られずに発生した不具合。
7. あらかじめ定めた用途、部位以外に使用し、それにより発生した不具合。
8. 使用者もしくは第三者の故意または、過失により発生した不具合。
9. 引き渡し後、構造、性能、仕様等の改変を行い、これにより発生した不具合。
10. 構造物の変形、老朽化、外部からの衝突等、製品以外の外的要因により発生した不具合。
11. 開発、製造、販売、施工時に通常予想される環境(温度、湿度、地盤その他)等の条件下以外における使用に起因することにより発生した不具合。

ご注意とお願い

- 本マニュアルは建築施工会社、鉄骨業者等がベースパック柱脚工法の施工・管理を行う際の実施項目・注意点を簡単にまとめたものです。詳細につきましては、別途「ベースパック総合カタログ」・「ベースパック設計ハンドブック」・「設計施工標準図」等をご参照ください。
- 製品改良等のためにベースパックの仕様・外観は予告なしに変更することがありますのであらかじめご了承ください。
- 本内容・仕様は2023年8月現在のものであります。



〈製造販売元〉

岡部株式会社

okabe

〒131-8505 東京都墨田区押上2-8-2
TEL.03-3624-5336

〈販売元〉

旭化成建材株式会社

〒101-8101 東京都千代田区神田神保町1-105
TEL.03-3296-3515